

令和 3年 1 月 1 9 日  
(2021 年)

家庭数

保護者の皆さまへ

千里みらい夢学園  
吹田市立千里たけみ小学校  
校長 角田 睦

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析について

2学期もあとわずかとなり、朝夕の気温が下がり体調を崩しやすい季節となりましたが、保護者の皆様には、平素より本校教育にご理解とご協力いただきありがとうございます。

今年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、既に個人の結果をお返ししたところです。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

本調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語と算数、(理科※1)に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを前提として、本調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に向けて具体の取組を進めることが、本調査のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として学力向上につながる指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

(※1 理科については隔年で実施。今年度は未実施)

### 1. 国語に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

#### 話すこと・聞くこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

#### 書くこと

・全ての設問において、全国の正答率とほぼ同じ結果でした。

#### 読むこと

・全ての設問において、全国の正答率をやや上回る結果でした。

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

・全国値を上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値よりも低い結果となっています。

### (3) 国語科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い結果となっており、良好な結果となっています。しかし、記述形式の無解答率が全国値と比較して高いことから、文章を書くことに抵抗がある児童が多く、問題を時間内に解くことが難しかったように思われます。

#### 話すこと・聞くこと

良好な結果となっています。目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考へることや、目的や意図に応じ、資料を使って話すことの理解ができています。目的を明確にし、調べたことや自分の考えを正確に伝えられるようにしていくことが大切です。

#### 書くこと

全国値とほぼ同じ結果でしたが、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考へることに課題があります。多くの情報や自分の考えを整理して書く学習や、伝える相手を意識して書く学習の中で、自分の考えを正確に伝えるために工夫して書き表せるような機会を増やしていきます。

#### 読むこと

良好な結果となっています。文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握したり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することができています。これは全ての学年において読書活動に進んで取り組んでいる成果であると分析します。様々な種類の本に多く触れることができるよう、引き続き環境整備や指導を進めていきます。

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

良好な結果となっています。漢字を文の中で正しく使うことができています。一方で文の中における主語と述語の関係を捉えることに課題があります。書く活動や読む活動の中で、接続語や修飾語等、文を構成する要素を抑えた指導に努めていきます。

## 2. 算数に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

#### 数と計算

- ・全国値を上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値とほぼ同じ結果でした。

#### 図形

- ・すべての設問において全国の正答率を上回る良好な結果でした。

#### 測定

- ・全国値を上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値とほぼ同じ結果でした。

#### 変化と関係

- ・すべての設問において全国の正答率を上回る良好な結果でした。

#### データの活用

- ・全国値を上回り、良好な結果でしたが、一つの設問で全国値とほぼ同じ結果でした。

### (3) 算数科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて、低位層が少なく、高位層が多い結果となっています。基礎的な問題については宿題、応用的な問題については「千たけプリント」といった学校全体での組織的・継続的な取組により、成果が出ていると考えられます。

しかし、国語科と同様に無解答率が全国値と比較して高い傾向が見られますが、算数科における記述形式の問題は無解答率が低く、最後まで取り組む結果となっています。

#### 数と計算

良好な結果となっています。場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題が見られます。図や絵を効果的に活用しながら、数量の関係を捉えられるようにしていくことが大切です。

#### 図形

良好な結果となっています。特に三角形の面積や複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方については8割以上の正答率でした。公式にあてはめて計算するだけでなく、図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方と答えを記述できることが大切です。

#### 測定

良好な結果となっています。条件に合う時刻を求めることに課題がありました。日々の生活の中から、何分後や何分前など時間を意識して生活することが大切です。

#### 変化と関係

良好な結果となっています。速さ、道のり、時間の関係について考察し、速さを求める除法の式と商の意味を理解することができています。

#### データの活用

良好な結果となっています。様々な棒グラフや帯グラフから数量を読みとったり、データを表に分類整理したりすることができています。他教科との関連を深め、資料を読み取り、データを活用する学習を進めていきます。

## 3. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### (1) 学習環境・生活環境等について

- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」での肯定的回答は全国値を上回っています。ご家庭で子どもとルールを話し合い、利用できている事が分かります。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」での肯定的回答は全国値を上回っています。一方で「自分には、よいところがあると思いますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の2つの質問での肯定的回答は全国値を下回っています。学校とご家庭で協力して、自己肯定感や自尊心を高めていけるよう、子どもたちを見守っていく必要があります。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」での肯定的回答は全国値を下回っています。一方で「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」での肯定的回答は全国値を上回っています。自分の思いや願いを行動にうつすことに抵抗感を感じている児童が多いのではと分析します。
- ・「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」での質問では、「当てはまる」と回答した人の割合が全国値を上回っています。学習した内容を振り返り、もう一度考え直す習慣がついています。これからも、子どもたちにとって分かりやすく楽しい授業を行い、その過程も大切にしたい授業に取り組んでいきます。

## (2) 教科・学習について

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことをいかしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」の設問に対して、肯定的回答は全国値を大きく上回っています。引き続き、自分の考えを表現できる学習の場や機会を増やすとともに、コミュニケーション力の向上を様々な教育活動の中で図っていきます。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」での肯定的回答が全国値を上回っています。今後も、朝読書の時間や読書週間での取組等を通してさらに読書への関心意欲が高まる機会を作っていきます。
- ・「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」について、「週一回以上」・「月一回以上」という回答が多く、全国値を大きく上回っています。今後もipadの端末を日常的かつ効果的に活用し、「個別最適な学び」の保障につなげていきます。

## (3) 英語について

- ・英語の勉強は、約半数近くの児童が「好き」「どちらかといえば好き」と回答していますが、「好きではない」と回答している児童もいます。英語の勉強を好む児童が全国値より少ない傾向にあります。
- ・全国値よりもやや下回りますが、7割近くの児童が、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができているという結果でした。
- ・「英語を授業以外で使う機会があった」と回答した児童は、全国値よりも上回っています。

### <英語における成果と今後の改善点について>

学年全体の回答分布は、全国の分布状況と比べて、肯定的な回答が少ない結果となっています。日常的に使用することが少ない言語であり、また教科化に伴い「書くこと」の活動が加わったことで、新たな表現を習得することに苦手意識を持つ児童が多いと考えられます。今後も英語専科教員・ALT・担任と連携を密にしながらきめ細かな指導を図り、基本となる表現方法等を確認しながら楽しくコミュニケーション力を高める授業づくりを行っていきます。

## (4) 感染症対策（休校期間中の生活）について

- ・「新型コロナウイルス感染拡大での休校期間中、勉強について不安を感じましたか」の回答では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」（肯定的回答）が全国値を下回る結果となっています。また、「新型コロナウイルスでの休校期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の回答では、肯定的回答が全国値とほぼ同じ結果となりました。これは、家庭での声かけや見守りがあり、学校からの課題や家庭学習を計画的に進めることができたと推測されます。
- ・「新型コロナウイルスでの休校期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の回答では、肯定的回答が全国値とほぼ同じ結果となりました。これは、家庭での生活が学校授業時と同様に見守りが徹底されていたと推測されます。
- ・「新型コロナウイルスでの休校期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか」の回答では、「友達に聞いた」が全国値を上回り、「家族に聞いた」が全国値とほぼ同じ結果でした。また、「分からないことをそのままにした」の回答では全国値をやや下回る結果でした。これは、家庭において安心して学習に取り組む環境があり、分からないことは友達や家族に聞きやすい状況であったことが推測されます。

#### 4. 今後の取組

「学力調査」においては、国語・算数共に、ほとんどの設問において全国数値を上回っており、日頃の学習や取組の積み重ねが成果として表れていると考えます。一方で「学習状況調査」においては、学ぶ意欲や学習に取り組む姿勢などについての自己評価が低い傾向にあります。今後も各教科の基礎基本の定着を図るとともに、学ぶ過程を大切にしたり振り返りや評価を行うことで、「できた」「わかった」喜びを持てるようにしていきます。また、学びを日常生活や社会と関連付けていくことで、学習の必要性・有用性を児童が感じられるようにします。

今後も、考えを伝え合い学び合う授業の構築をさらに進めていき、学園の目標である「学びに向かうスタイル」に基づいた授業を引き続き推進していきます。また、少人数指導・TTなどの学習形態の工夫や、ICT機器の効果的な活用を行うことで、「個別最適な学び」につながるきめ細かな学習指導を行っていきます。

新型コロナウイルス感染症防止対策として昨年度は6月まで臨時休業期間となっておりましたが、規則正しく生活し計画的に学習を続けることができた児童が多くいました。保護者の方の声掛けや見守りの中、児童自身が自律した生活を送ることができていたと考えられます。ありがとうございました。

今後も児童一人ひとりの良さを生かしながら、保護者・地域の方々と協力する中で、教育実践に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。